町ト記ス、相傳フ此地宿驛越置レシハ、元和以後ノ事ナリ、關西ノ諸侯朝覲往還ノ時、箱根山ノ嶮峻ニシテ、且郵驛路遠ク、易ヲカラザルヲ以テ、元和四年、松平右衞門大夫正綱仰ヲ奉リ、山野ヲ闢キ、三島、豆州ノ屬小田原兩驛ノ民ヲ遷サレ、此地ニ新驛ヲ置ル、是ヲ以テ今宿內ニ三島町、小田原町ノ二名アリ、

〔續日本紀三十光仁〕寶龜二年十月己卯、太政官奏、武藏國、雖屬山道、兼承海道、略中今東海道者、從相模國夷參驛、達下總國、其間四驛、往還便近、略下

〔吾妻鏡四〕元暦二年元文治元年五月十五日丁酉、廷尉使者景光參著相具前內府父子、令參內云、去七日出京、今夜欲著酒勾驛、明日可入鎌倉之由申之、北條殿爲御使、令向酒勾宿給、

〔吾妻鏡四十〕建長二年十二月十三日甲辰、今日相州室被著姙帶、鶴岡當別法印隆辨加持之、法印去九月以後住持之處、依此請、態所被遣之飛脚、相逢于萱津驛之間、競寸陰今夕走著云云、

〔廻國雜記〕大磯の宿といへる所は、いにしへとらといひける、好色のすみける所となんある、同行にたはぶれに申きかせける、

今は又とらふすのべとあれにけり人は昔のおほいその里

建置沿革

〔日本國郡沿革考二東海道〕相模　古作相武古事記、國造記、上國、管九郡延喜式八郡六百七十一村、

三浦七十八村延喜式等作御浦　鎌倉八十九村　高坐百十八村天武紀作高倉　足柄上九十四村古足柄郡、折爲上下、未詳在何時、延喜式作足上、　足柄下八十三村延喜式作足下　陶綾十九村延喜式等作餘綾、萬葉集余呂伎能波麻、即此地、國造記所謂師長國造、即餘綾郡磯長鄕、　大住百十八村古府治　愛甲四十五村　津久井縣延喜式等不載、置未詳何時、

〔新編相模國風土記稿二建置沿革〕抑當國ノ號、正史ニ見エシハ、古事記、日本紀共ニ景行帝ノ條ニ出ルモノ、是ヲ始ト云フベシ、略中國造本紀ニ據レバ、此朝、意富鷲意彌命ヲモテ師長國造トセラル、曰師長國造、志賀高穴穗朝御世、茨城國造祖、建許呂命兒、意富鷲意彌命、定賜國造、師長ハ即倭名鈔當國餘綾郡ノ鄕名ニ磯長トアル是ナ